



車内の金城学院大学

48限目

「教育人間学」

「子ども」は18世紀に発見された!？」

〔時代と子ども観〕

フランスの歴史学者、フィリップ・アリエスは、その著書の中で、中世ヨーロッパには「子ども」という概念が無かったと記しています。当時子どもはあくまで親の私有物で、一家の労働力として扱われており、乳幼児期を過ぎた子どもは「体の小さな大人」と考えられていました。このような状況に対し、18世紀、思想家のジャン＝ジャック・ルソーは、子どもには特有の感じ方や考え方があり、子どもは子どもにふさわしい時代を過ごさせる必要がある、と主張しました。今では当たり前のように思えることですが、この主張は、初めて社会に子どものあるべき姿を問うたものであり、ルソーは「子どもの発見者」と呼ばれることもあります。子どもに対する見方は時代によって異なりますが、子どもの幸せを望み、子どもにどのような時間を過ごさせるかが、私たち大人の大切な役割なのです。

子どもを見つめ、豊かな社会を考える。それが人間科学部 現代子ども学科。

強く、優しく。



金城学院大学